

スタートアップ育成分科会 総合経済対策重点事項に対するご意見

2022/10/14

TAKAO AI Ltd.

代表取締役 板橋竜太

会社紹介



TAKAO AI 株式会社

<https://takao.ai/>

・代表：板橋竜太 / CTO：藤巻晴葵



- ・ 2021年2月に創業、未だ成長初期段階
- ・ 東京高専の学内活動で開発したシステムが、高専プログラミングコンテスト・高専DCONで高く評価されたことをきっかけに起業

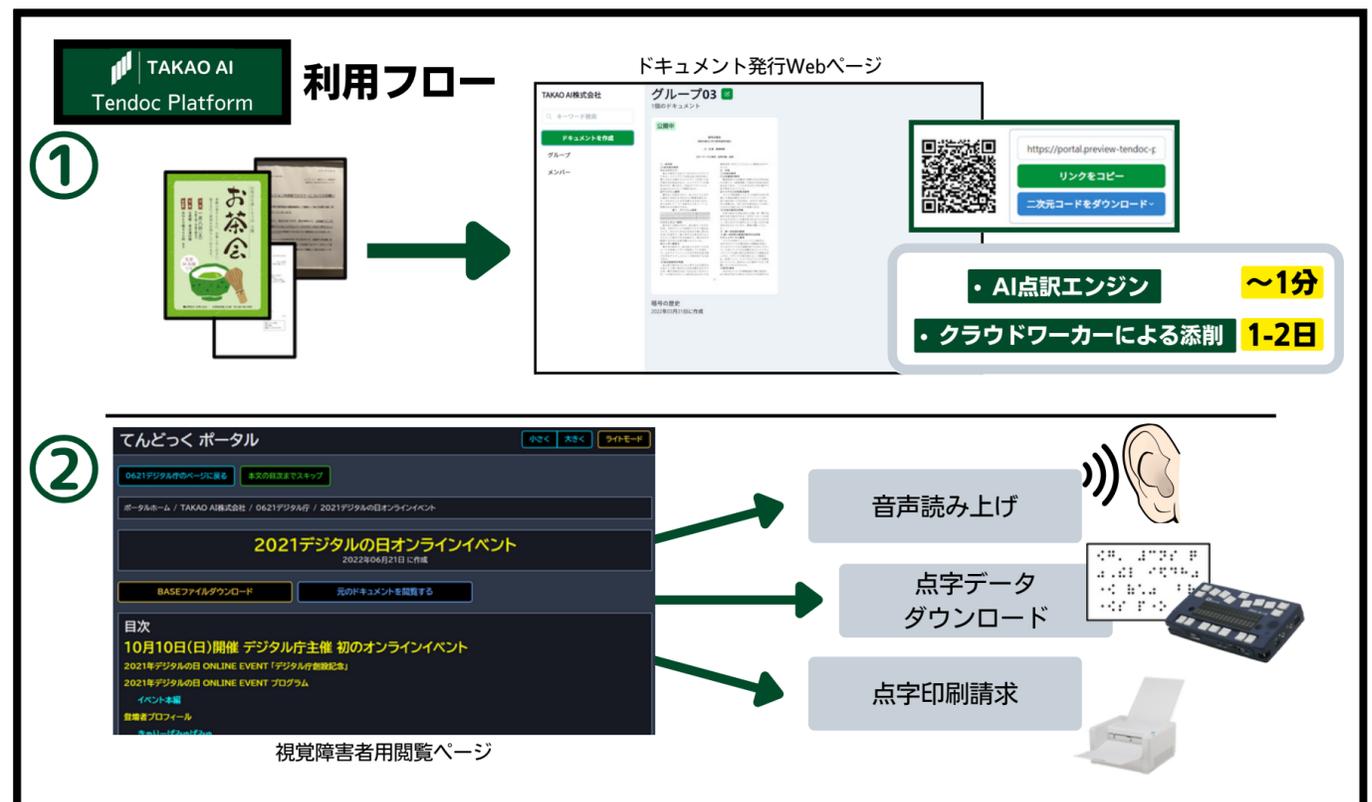
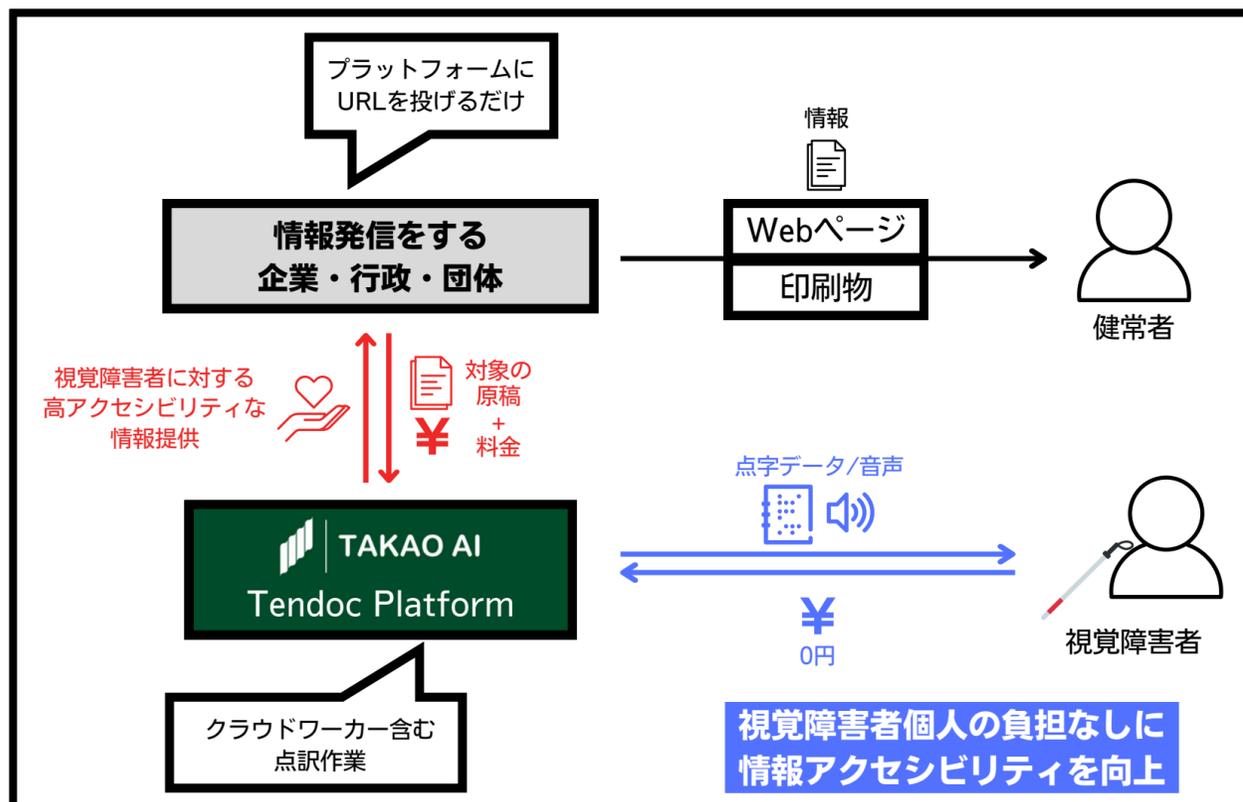


第30回 2019年 全国高専プロコン
最優秀・文部科学大臣賞



第一回 高専DCON 2020
優勝

- ・ 現在は視覚障害者の情報アクセシビリティを改善するための、AI技術を活用した情報提供プラットフォームを開発・実証実験中
- ・ 高専卒 (技術者である)、成長初期段階、社会的起業家という側面からご意見させていただきます



未踏をはじめとした教育について

(前提) 技術力で競合や同一分野の大企業に対して優位性を持ったスタートアップは、その一社にしか提供できない価値を生み出すことが安易であり、スタートアップにとって高い技術力の存在は非常に強力である。



- **日本の学生の技術力自体は、決して遅れを取っている訳ではない。**

- 研究の現場という側面から見ての「技術力」だけではなく、すぐそのままスタートアップでの事業につながるような技術も、多く存在している。

- 一例は、発言者自身も出場した高専プロコンやDCON
 - 社会的課題に対しても説得力ある作品が毎年複数



<https://www.youtube.com/watch?v=GpcsrOywmHA>

→育てられた技術力・実装力を、彼ら自身の意思でどう活かせるかが重要

- **未踏事業の拡大**

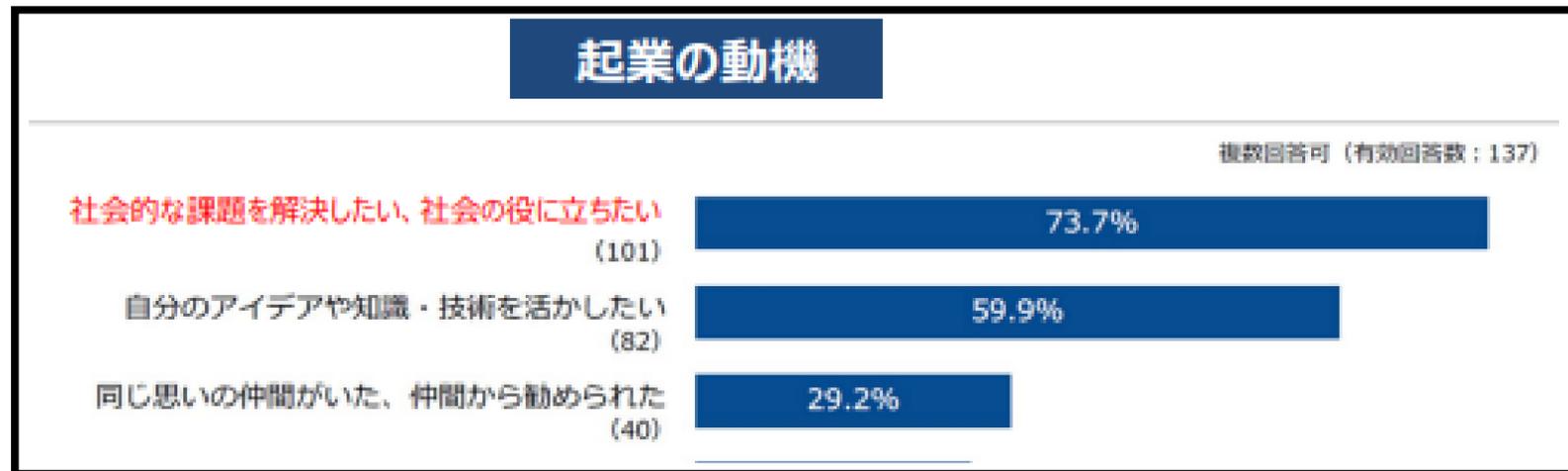
→大いに意義あることで、技術を持った個人がメンタリングを受けて社会実装に取り組める取り組みの間口が広がることは非常に魅力的で、是非進めていただければと感じる

- 一方で、スタートアップが今後5~10年で成長するためには、5年後にも日本の技術者が世界的に見て高いレベルの技術を持っていることが重要であり、これには高等教育のグローバル化が大きく寄与すると考える
 - 昨今読むAI分野の英語論文のうち、全く違う国の大学と大企業が共同で研究を行っている事例の多さと、成果の豊富さに驚く。彼らは企業の大きな予算と、国内外の知恵を集めることによって目覚ましい研究成果を挙げている一方で、日本の大学の名はこのような場所で登場しにくい。英語を活用したグローバルな研究に積極参加できること、その整備(つまり英語教育)が、今後より重要になると感じる。
- (米スタンフォード大の起業家精神育成が非常に重要な役割を担う傍らで、米には同時にMITも存在する。新しい会社と技術が育つためには、どちらの存在も必要不可欠であったと思う)

オープンイノベーションについて



(前提) 基礎資料集 P8 「起業の動機」図の通り、日本においては社会的課題の解決が起業のモチベーションとなっている例が多く、これは日本人の国民性の傾向も含まれての事象だと考える。



- 日本で生活する中で出会う「社会問題」を解決する際には、多くの人が同一のインフラ・公共サービスに頼った生活をしている事実がある以上、それに作用することによってのみ現実的に実現できるケースが、非常に多い。
- 日本の公共設備・サービスやインフラの品質は世界的に見ても非常に品質が高い。またそのような高品質のサービスを安定して供給することに最適化された組織作りがなされている。→つまりスタートアップと正反対の存在



- 二個の見方が可能：
 - a. 安定した高度なインフラがあるので、そこに近い分野において、スタートアップによる新規事業創出のチャンスが少ない
 - b. 安定した高度なインフラがあるおかげで、そこにスタートアップの新規事業が実験的でもに加わることができる、非常に社会的インパクトが強い新規事業が創出し得る
- 後者、「b」の環境を、国内の大企業・行政サービス・インフラ化したサービスの事業者全体で作り上げることができれば、「社会課題を解決したいスタートアップ」にとって、この国はこの上なく素晴らしい土壌となるポテンシャルを持っている

→オープンイノベーションの推進によって、日本のインフラを世界最高のサンドボックスに

